



第77回 国民体育大会

総合プログラム



2022

いちごいちえ 会とちぎ国体

夢を感動へ。感動を未来へ。

令和4(2022)年10月1日(土)~10月11日(火)

会期前実施競技 9月10日(土)~9月19日(月)

主催:公益財団法人日本スポーツ協会、文部科学省、栃木県(各競技会は、公益財団法人日本スポーツ協会加盟競技団体及び会場地市町も主催となります)

国民体育大会マーク



昭和22年に国民体育大会のシンボルとして制定され、第2回大会から使用されています。30度右傾斜した赤色の火炎を直径の10分の1幅の紺青色の円帯で囲んでいます。

総合開会式・総合閉会式会場



カンセキスタジアムとちぎ

大会愛称

いちご一_{いちえ}会とちぎ国体

「いちご」の生産量53年連続日本一の栃木県。「いちご王国」で行われる大会に参加するすべての人々が、県民の心のこもった様々なおもてなしに出会い交流を深めることで新たな夢や感動が生まれることを目指します。

スローガン

夢を感動へ。感動を未来へ。

アスリート達が夢に向かって突き進む姿は、大会に参加するすべての人に感動を与えます。その感動をレガシーとして、未来の人づくり、地域づくりにつなげていきたいという願いがこめられています。

マスコット「とちまるくん」

いちご一_{いちえ}会とちぎ国体・いちご一_{いちえ}会とちぎ大会マスコットは、「とちまるくん」です。

ちょっとやんちゃでスポーツが大好きな「とちまるくん」が、両大会を一緒に盛り上げます。



環境に配慮した大会の開催に 取り組んでいます



環境先進県オリジナルの取組として、「環境に配慮した いちご一
会とちぎ国体・とちぎ大会」推進宣言を行いました。

「環境に配慮した いちご一 会とちぎ国体・とちぎ大会」推進宣言

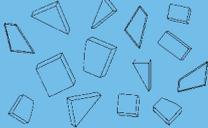
- 1 スポーツの素晴らしさとともに、環境というテーマを幅広く共有し、県民、企業、団体、行政が一体となった「オールとちぎ」によって、様々な場面で環境に配慮した両大会を実現すること
- 2 県内産業の技術力を生かし、「メイド・イン・とちぎ」による環境配慮の製品・サービスを積極的に活用した両大会を開催することで、本県の実力を県内外にアピールすること
- 3 両大会を通じて得られた環境に配慮した取組に関する成果を「次世代のとちぎ」へと引き継ぎ、幅広い取組につなげていくこと

両大会の運営の中、様々な環境配慮の取組を実施しています。

栃木県選手団ユニフォーム& 運営スタッフウェアをeco素材で制作

環境に配慮した「メイド・イン・とちぎ」の技術を採用



- 1 ペットボトルを水洗いし、ラベルやキャップも外す 
- 2 粉砕してフレーク状にする 
- 3 フレークから糸に加工する 
- 4 糸から布を織りあげてユニフォームにする 

「環境に配慮した いちご一
会とちぎ国体・とちぎ大会」
推進宣言で掲げた、県内産業の技術力「メイド・イン・
とちぎ」の積極活用の取組として、世界で初めてペット
ボトルからペットボトルを再生する技術を開発した県内
企業の技術力を生かし、ペットボトルから再生した繊維
を採用しています。機能面でも、軽量で通気性と速乾性
に優れた生地仕上がっています。

選手団ユニフォームは、開・閉会式会場のほか、県内
各地の競技会場等に展示しています。

とっても軽くて
動きやすいまる～



「オールとちぎ」体制で「メイド・イン・とちぎ」の製品・サービスを活用した「次世代のとちぎ」へとつながる大会を目指します。

再生可能エネルギーの最大限活用

大会運営へのグリーン電力の活用や、バイオガス由来のグリーンLPガスを炬火の燃料として使用するほか、おもてなし広場等の運営にEV自動車からの電力供給を行います。



電子化による紙類使用の削減

「観戦ガイドブック」「総合プログラム」を電子化し、紙の使用を大幅に削減するほか、デジタルツールを効果的に活用し、会場周辺情報などを的確に伝達します。



代替素材によるプラスチック類の不使用

賞状持ち帰り用の袋をプラスチックから紙に変更するほか、弁当容器をプラスチックから紙に変更します。



ごみの分別徹底・資源循環の促進

県民の皆さんから集めた衣料品をハンドタオルに再生し、応援で使用する「県民参加プロジェクト」のほか、競技会場周辺でスポーツGOMI拾い大会などを行います。



メイド・イン・とちぎの環境配慮製品

「環境に配慮した いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会推進宣言」を後押しするため、県ものづくり技術強化補助金を活用し、県内ものづくり企業が開発した環境に配慮した製品・サービスです。

おからバイオマスプラスチックフィルム

サンプラスチック(株)
(那須塩原市)

栃木県産「おから」を15%配合したバイオマスプラスチックフィルムで、石油由来プラスチックを26%削減し、脱炭素につながります。



再生紙を使用で環境に配慮した紙袋

ヘイコーパック(株)
(芳賀町・市貝町)

紙袋に自社再生紙や環境配慮型のインクを使用しています。また、一部の商品には抗菌ニス、抗菌取手を施し機能性にも特化した安心・安全な仕様です。



とことんエコなバナー

(株)幕巻 (矢板市)

塩化ビニールを低減した生地で、焼却処分の際の有害物質の発生を抑制するとともに、軽量化(45%減)になり、取付・施工性も向上。使用後にエコバックにリメイクも可能。



とちぎメインスポット周辺ナビ

ヤマゼンコミュニケーションズ(株)
(宇都宮市)

来場者向けパンフレットなど、従来の紙媒体に代わる会場周辺Webサービスを開発。栃ナビ!の“地元のクチコミ”データを活用し近隣スポット情報(飲食店・観光スポット・温泉など)を提供します。

位置情報を基に
周辺の
・飲食店
・お土産店
などの情報を表示



環境問題への意識を高め、行動を変えることにつながっていきたいと考えております。皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

両大会の環境配慮の取組 ▶





協賛企業・団体一覧

(順不同・敬称略)
令和4年8月31日現在

私たちは「いちご一会とちぎ国体」を応援しています

国体パートナー (JSPO)



大塚製薬



三井住友海上

MS&AD INSURANCE GROUP

時事通信

セレスポ

企業のロゴをタップすると紹介ページに移動するまる！



私たちは「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」を応援しています

国体パートナー (TOCHIGI)



北関東総合警備保障



フタバ食品株式会社



栃木銀行



下野新聞社

企業のロゴをタップすると紹介ページに移動するまる！



私たちは「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」を応援しています



国体パートナー (TOCHIGI)



企業のロゴをタップすると紹介ページに移動するまる！



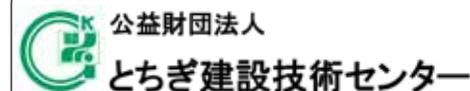
私たちは「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」を応援しています

国体パートナー (TOCHIGI)



私たちは「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」を応援しています

オフィシャルスポンサー



企業のロゴをタップすると紹介ページに移動するまる！

私たちは「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」を応援しています

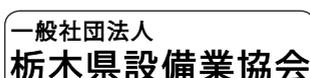
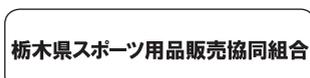
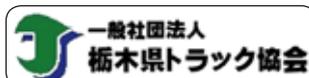
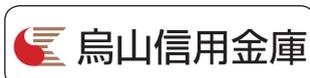


オフィシャルスポンサー



私たちは「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」を応援しています

オフィシャルサポーター



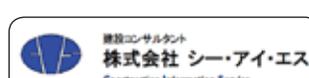
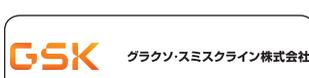
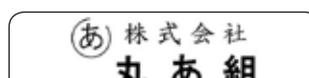
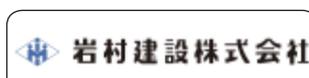
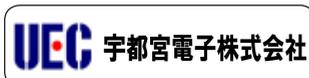
企業のロゴをタップすると紹介ページに移動するまる！



私たちは「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」を応援しています



オフィシャルサポーター



企業のロゴをタップすると紹介ページに移動するまる！





私たちは「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」を応援しています

オフィシャルサポーター

2022 新を創る。美観を作る。 渡辺建設株式会社	邦和理工株式会社	とちぎコープ 食卓を笑顔に、地域を豊かに。
仙波糖化工業株式会社	餃子舗 宇都宮みんみん	感動をカタチにする企業 Ishiwata http://www.ishiwata-corp.jp/
東邦建株式会社	榮商事株式会社	

私たちは「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」を応援しています

オフィシャルサプライヤー



KOKUYO コクヨ北関東販売株式会社	栃木日産	日産プリンス栃木
栃木トヨタ	栃木トヨペット	NetZ ネッツトヨタ栃木
トヨタ カローラ栃木	Honda Cars 栃木東	Honda Cars 栃木
Honda Cars 栃木中央	Honda Cars 栃木中	株式会社 ホンダプリモ中央
栃木スバル自動車	株式会社 北関東マツダ	SUZUKI 株式会社 スズキ 自販栃木
栃木ダイハツ販売	トヨタレンタリース 栃木	オリックスレンタカー オリックスレンタカー栃木株式会社
株式会社 イマタ	日光霧降高原 大笹牧場	moka 874 株式会社
TOBU 東武鉄道	TOBU 宇都宮 大田原 栃木	公益財団法人 栃木県保健衛生事業団
アリハストーンタイヤ 栃木販売株式会社	企業のロゴをタップすると紹介ページに移動するまる！	



私たちは「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」を応援しています

オフィシャルサプライヤー



NIPPON Rent-A-Car	WINWORKS	株式会社 ファーマーズ・フォレスト
七水	Quick	白石物産株式会社
新朝プレス	TOMSON 株式会社 オーシマ小野商事	楠十郎 栃木のクチコミナビ
システム興産株式会社	YUU YUU WORLD 株式会社 ユーユーワールド	第一酒造 株式会社
高林堂	NIKKO COFFEE 日光珈琲	衛生を、ずっと CRECIA
とちぎテレビ	全国マツガ労働組合連合会	NTT docomo
公益社団法人 日本フラワーデザイナー協会	城山	栃木リビング新聞社
公益社団法人 とちぎ環境・みどり推進機構 —未来へつなぐ緑と森の人づくり—	KOBELCO 神戸製鋼グループ	Sharuka 株式会社鹿沼興産
古河電工	株式会社カンセキ	ACADEMY-GROUP アカデミー・グループ
株式会社 松井ピ・テ・オ・印刷	KAO きれいを ころころに 未来に	やっぱり木が好き OF COURSE I LOVE TREES
スタジオアリス Studio Alice	シンテイ シンテイ警備株式会社	TOCHIGI GREEN SERVICE Flower & Green
とちぎファミリーランド Tochigaki Family Land	だちっぴとちぎ JAグループ栃木/JA全農とちぎ	PINOLE
Ozone Air Generator AIRBUSTER	企業のロゴをタップすると紹介ページに移動するまる！	





私たちは「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」を応援しています

大会協力企業

- 栃木いすゞ自動車株式会社
- 宇都宮中央ライオンズクラブ
- 株式会社栃木銀行
- 株式会社カンセキ
- 三菱商事ライフサイエンス株式会社
- 社会福祉法人とちぎ健康福祉協会
- 株式会社ニッカネ
- 一般社団法人あおぞら福祉カレッジ
- 株式会社日新
- 公益財団法人とちぎ男女共同参画財団
- 株式会社健食
- 社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
- 学校法人松本昭和学園エクセルン高等学校
- 有限会社スプランドールとらや
- 有限会社大関種苗園
- 株式会社TMC経営支援センター
- 株式会社木村
- 大谷石材協同組合
- 株式会社小野測器
- 株式会社タカヤ商事
- 栃木県森林組合連合会
- 栃木県スポーツ用品販売協同組合
- 栃木県酪農業協同組合青年部連合会
- 公益財団法人栃木県農業振興公社
- 栃木日野自動車株式会社
- 株式会社ルイ高
- 吉岡食品工業株式会社
- カゴメ株式会社那須工場
- 笠原産業株式会社
- 株式会社栃木県民球団
- 株式会社カナメ
- 有限会社菊池建材工業
- 公益財団法人とちぎ未来づくり財団
- カネイチ青果株式会社
- 株式会社興建
- 公益社団法人栃木県観光物産協会
- 株式会社タスク
- 栃木パナソニックファミリー会
- 株式会社宇都宮花き
- とちぎボランティアNPOセンター
- 日本チョコレート工業協同組合
- 株式会社サンモニター
- レンゴー労働組合
- 日光霧降大笹牧場株式会社
- コクヨ北関東販売株式会社
- 株式会社井上総合印刷
- デクセリアルズ株式会社

募金者一覧

※敬称略

【企業・団体】

- 株式会社谷黒組
- 株式会社板橋組
- 那須土木株式会社
- 株式会社SUBARU航空宇宙カンパニー
- 株式会社空調サービス
- 一般社団法人栃木県設備業協会
- 恵産業株式会社
- 宇都宮電子株式会社
- 一般社団法人栃木県舗装協会
- 一般社団法人栃木県造園建設業協会
- 株式会社TMC経営支援センター
- 一般社団法人栃木県自動車整備振興会
- 一般社団法人栃木県測量設計業協会
- あづま食品株式会社
- 栃木県中央生コンクリート協同組合
- 大幹建設株式会社
- 株式会社エイチ・エル・シー
- 医療法人翼望会
- 岩澤建設株式会社
- 株式会社司緑化
- 株式会社丸あ組
- 栃木県アスファルト合材協会
- 栃木県安全施設業協会
- 公益社団法人栃木県不動産鑑定士協会
- 在日本大韓国民団栃木県地方本部
- 宇都宮土建工業株式会社

【個人】

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| ■ 江連 隆 | ■ 伊藤 文之 | ■ 重原 嘉久 | ■ 須賀 英之 |
| ■ 宇梶 誠一郎 | ■ 佐藤 和己 | ■ 石松 英昭 | ■ 小泉 裕 |
| ■ 海老名 英治 | ■ 渡辺 直治 | ■ 飯塚 真玄 | ■ 松下 正直 |
| ■ 藤澤 智 | ■ 布施木 昭 | ■ 飯見 千代治 | ■ 金田 貞夫 |
| ■ 大塚 美恵子 | ■ 近嵐 藤枝 | ■ 大川 容子 | ■ 黒本 淳之介 |
| ■ 田仲 和王 | ■ 渡邊 繁雄 | ■ 青木 秀夫 | ■ 角井 清志 |
| ■ 松久 登 | ■ 倉持 満子 | ■ 村岡 治作 | ■ 村岡 アイ |
| ■ 市橋 璞 | ■ 市橋 春枝 | ■ 鈴木 一 | ■ 鈴木 チイ |
| ■ 鈴木 寛 | ■ 鈴木 赫子 | ■ 長島 徹 | ■ 手塚 安則 |
| ■ 井上 悦朗 | ■ 鹿子畑 茂夫 | ■ 大塚 吉兵衛 | ■ 鈴木 誠一 |
| ■ 今田 誠司 | ■ 佐藤 国生 | ■ 今田 ケイ | ■ 石橋 俊一 |
| ■ 青木 政智 | ■ 新井 英雄 | | |



多額の募金を頂いた方を掲載しております。
このほか多くの企業・団体・個人の皆様にご協力いただいております。
ありがとうございました。

あ い さ つ



公益財団法人 日本スポーツ協会
会長 伊藤 雅俊

世界遺産「日光の社寺」や多くの魅力ある景勝地を有するここ栃木県において、第77回国民体育大会が開催されますことは、誠に喜ばしい限りであります。

スポーツを通して広く国民に夢と希望を与え、明るく豊かな国づくりを目指してスタートした国民体育大会は、77年間を経て今日まで多くの関係者のたゆまぬ努力と情熱に支えられ、我が国最大かつ最高のスポーツの祭典として充実、発展を遂げてまいりました。

栃木県における国体は、昭和55年の第35回栃の葉国体以来42年ぶりの開催となります。栃木県では本年冬季大会も開催いただいております、栃木県で同一年に本大会と冬季大会が開かれるのは初めてとなります。

「いちご一会 とちぎ国体」の愛称のもと、国体に参加するすべての人々が県民の皆様へのこもった様々なおもてなしに会い、交流を深めることにより、新たな感動が生まれることを目標に、栃木県の皆様がその準備に万全を尽くされた大会となります。

全国から厳しい予選を勝ち抜き、栄えある郷土の代表として参加される選手・監督には、フェアプレー精神のもと、日頃鍛えた力と技を存分に発揮されるとともに、地元の皆様との出会いを大切に、「元気」あふれる実り多い大会となるよう切望いたします。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、2年連続して本大会が中止となりましたが、今大会に向けてコロナ禍にあっても開催できるあらゆる方法を主催者間で模索して参りました。安全で安心な大会の開催に向けて関係各位のご協力が不可欠となりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

結びに、今大会の開催にあたり、長年諸準備にご尽力いただきました地元栃木県をはじめ、関係の皆様方のご支援、ご協力に対し心から深く感謝申し上げます。

あ い さ つ



文部科学大臣
末松 信介

日本三名瀑^{ぼく}に数えられる「華厳の滝」やラムサール条約湿地に登録された「渡良瀬遊水地」など豊かな自然の魅力にあふれ、日光東照宮をはじめとする世界遺産「日光の社寺」や日本最古の学校といわれる「足利学校」など、歴史と文化が息づくここ栃木県において、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」が開催されますことを、誠に喜ばしく存じます。

国民体育大会は、我が国最大のスポーツの祭典として、広く国民に親しまれるとともに、今日に至るまで、スポーツの推進・発展に極めて重要な役割を果たしてまいりました。

栃木県での国民体育大会の開催は、昭和55年以来42年ぶりとなり、「夢を感動へ。感動を未来へ。」のスローガンのもと、栃木県全域を舞台に熱戦が繰り広げられます。「いちご一会とちぎ国体」が国民に夢と感動をもたらす、素晴らしい大会となりますことを心から願っております。

今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、第75回鹿児島国体、第76回三重国体が中止となるなど、様々な大会やスポーツ活動に大きな影響を与えておりますが、文部科学省としては、アスリートや子供たちの活動の機会を守り、スポーツの持つ力やすばらしさが社会の活力につながるよう、関係の皆様と一丸となって取り組んでまいります。

郷土の代表として参加される選手の皆さんが、これまで積み重ねてこられた練習の成果を思う存分発揮され、我が国の国際競技力の向上が図られるとともに、この機会に交流の輪を広げられ、思い出に残る大会になりますことを期待しております。

結びに、「いちご一会とちぎ国体」の開催に当たり御尽力いただいた地元栃木県、会場となる各市町をはじめとする関係の皆様への御支援、御協力に対し、心から敬意と感謝の意を表しまして、御挨拶といたします。 (令和4年8月1日現在)

歓迎のことば



いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会
実行委員会会長
栃木県知事 福田 富一

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、全国から多くの選手及び役員の皆様をお迎えして、ここ栃木県において、第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」を開催できますことは、この上ない喜びであり、県民を代表して心から歓迎申し上げます。

本県における国民体育大会の開催は、昭和55年以来42年ぶり2回目、また、去る1月に日光市で開催しました冬季大会との同時開催は本県では初となります。「夢を感動へ。感動を未来へ。」をスローガンに掲げ、すべての人に夢や感動を与える大会を目指し、オール栃木体制で準備を進めて参りました。さらに、「環境への配慮」を本県独自のコンセプトとして、県内産業の技術力を最大限に発揮した「メイド・イン・とちぎ」による環境配慮の製品・サービスを積極的に採用するなど、本大会を「新しいとちぎづくり」につなげて参りたいと考えております。

選手の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な制約がある中、創意工夫を凝らし、スポーツ活動に取り組まれてきたことと存じますが、日頃から積み重ねてきた鍛錬とたゆまぬ努力の成果を存分に発揮され、記憶に残る素晴らしい大会となりますよう祈念いたします。

なお、本県には四季折々の美しい自然や、世界遺産日光の社寺に代表される歴史・文化、鬼怒川・那須・塩原などの豊富な温泉、生産量日本一を誇るいちご、和牛や湯波といった特産物など多彩な魅力にあふれています。この機会にぜひ、本県の魅力に触れていただければ幸いに存じます。

結びに、各都道府県選手団の皆様の御健闘、御活躍を心からお祈り申し上げますとともに、本大会の開催にあたり、多大な御支援と御協力を賜りました関係者の皆様に心から感謝を申し上げ、歓迎のことばといたします。

歓迎のことば



栃木県議会議長
山形 修治

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、ここ栃木県において、第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」が、盛大に開催されますことは、私ども栃木県民にとりまして誠に光栄であり、この上ない喜びであります。

全国各地からお越しくございました選手、役員並びに関係者の皆様方を、栃木県議会を代表いたしまして、心から歓迎申し上げます。

「いちご一会とちぎ国体」は、「夢を感動へ。感動を未来へ。」をスローガンに掲げ、様々なスポーツの魅力と感動を発信する素晴らしい大会となるよう、「日本一のおもてなし」と「環境への配慮」を合言葉に、県を挙げて皆様をお迎えする準備を進めて参りました。

選手の皆様におかれましては、郷土の代表としての誇りを胸に、これまでに培った技と力を存分に発揮して大いに活躍されますとともに、競技を通じて全国の仲間と交流を深め、本大会が実り多く思い出深いものとなりますよう念願いたしております。さらに、大会に集うすべての方々に新たな夢や感動が生まれ、輝かしい未来の人づくり、地域づくりへとつながる素晴らしい大会となりますようお祈り申し上げます。

また、今回の来県を機に、豊かな自然や風土、歴史遺産や伝統文化、栃木県産食材を活かした食文化、県民の心のこもったおもてなしなど、栃木県の多彩な魅力に触れていただき、一人でも多くの方に「とちぎファン」になっていただければ幸いに存じます。

結びに、本大会の開催にあたり、多大な御尽力を賜りました関係者の皆様方に心から感謝申し上げますとともに、本大会の成功と皆様の御健勝、御活躍を祈念申し上げます、歓迎のことばといたします。

歓迎のことば



いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会
宇都宮市実行委員会会長
宇都宮市長 佐藤 栄一

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」を開催できますことは、誠に光栄であり、市民一同この上ない喜びでございます。

昭和55年以来42年ぶりとなる栃木県での国体開催に際し、全国各地からお越しいただきました多くの選手・監督並びに大会関係者の皆様へ、会場市町を代表いたしまして、心から歓迎申し上げます。

本大会において各競技会を開催いたします会場市町では、「夢を感動へ。感動を未来へ。」のスローガンのもと、大会に参加されるすべての方々に感動を与え、その感動を輝かしい未来へ伝えられる大会となるよう、準備に取り組んでまいりました。

出場される選手の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症への感染対策を徹底しながらの練習など、御苦労があったと存じますが、日ごろの鍛錬の成果を存分に発揮され、熱い戦いを繰り広げていただきますことを心から願っております。

本市は魅力的な観光資源として、餃子、カクテル、ジャズを有するほか、日本遺産に認定された大谷石の産地である「石の里 大谷」も人気が高く、大谷石採掘跡の巨大な地下空間は、映画やドラマの撮影にも使われるなど、全国から高い関心が寄せられております。ぜひ、この機会に本市の文化、歴史、食などに触れていただき、魅力を感じていただければ幸いです。

結びに、本大会の開催にあたり、御尽力を賜りました関係者の皆様に心から敬意を表しますとともに、選手の皆様の御健闘を祈念申し上げ、歓迎のことばいたします。



第77回国民体育大会

大会役員

(令和4年8月1日現在)
(順不同・敬称略)

名誉会長	末松信介						
会長	伊藤雅俊						
副会長	遠藤利明	泉正文	草野満代	森岡裕策			
	室伏広治	福田富一					
顧問	張富士夫	森喜朗	安西孝之	岡崎助一			
	ヨーコ ゼッターランド	池田めぐみ	今浦千信	具志堅幸司			
	小柳勝彦	坂元要	高井志保	高野瑞洋			
	長島昭久	平藤淳	細貝和司	増田和伯			
	丸山由美	安井克久	山倉紀子	山下泰裕			
	佐藤直子	中井敬三	森井じゅん	風間明			
	鷲見全弘	湯川和之	若月等	木村新			
	内藤貴詞	菊池浩吉	村上成司	瀧澤康二			
	中村彰久	天野好人	末柄勝	川北達也			
	小宮山哲雄	湧永寛仁	野際照章	前原正浩			
	山口宏	南和文	末松英司	中里壮也			
	丹藤勇一	増田規一郎	袴田登喜造	藤原崇郎			
	山崎勝洋	眞下昇	山口徹正	宮崎利帳			
	栗原茂夫	建部彰弘	市野保己	本戸歳知			
	中村ゆり子	齋藤良太郎	谷田部和彦	富澤和美			
	井上弘	岡崎温	永田圭司	浪岡正行			
	高村卓	園山和夫	坂田洋治	衣笠剛			
	知念かおる	田邊哲人	城門政文	田中壯一郎			
	碓井進	茂野直久	生島典明	大沢陽子			

古館慶之	茂木優	奥山雅信	根本聡
松本博崇	越川均	須貝謙治	今西博一
茅野繁巳	老月守	向田和義	南部則雄
福永秀樹	箕輪田晃	村木輝行	原克彦
木村孝一郎	山本誠三	廣瀬雅樹	福井基雄
南正晃	山崎嘉彦	松井守	久保田文也
河村祐一	高井信一	寺尾和祝	刈谷好孝
城戸英敏	辛木秀子	渡邊達也	佐多裕之
渡嘉敷通之	山田登志夫	大河原嘉朗	黒川光隆
飯田路佳	奈良隆	小菅司	寺澤正孝
大山加奈	山口純子	池田佳隆	高橋はるみ
義本博司	丸山洋司	矢野和彦	角田喜彦
尾縣貢	鈴木大地	田嶋幸三	山西健一郎
坂田東一	三須和泰	内田貞信	川合俊一
藤田直志	三屋裕子	富山英明	馬場益弘
三宅義行	松村正之	安道光二	藤重貞慶
武内繁和	千玄室	武井壮	三宅豊
関根義雄	松丸喜一郎	稲川泰弘	土田雅人
丸誠一郎	成田昌憲	世耕弘成	笹川堯
番匠幸一郎	佐藤浩市	北川薫	竹田恆正
岩城光英	寶馨	松浦正人	今川啓一
古城資久	荒川裕生	柏木司	達増拓也
鈴木省三	鶴田有司	吉村美栄子	須佐喜夫
大井川和彦	遠藤祐司	大野元裕	熊谷俊人
山本博	岡田伸浩	高野剛	花角英世
阿部守一	新田八朗	馳浩	杉本達治

参 与

川 勝 平 太 大 村 秀 章 向 井 弘 光 田 口 義 隆
 河 本 英 典 西 脇 隆 俊 牧 野 明 次 齋 藤 元 彦
 池 田 誠 也 仁 坂 吉 伸 林 昭 男 越 宗 孝 昌
 苅 田 知 英 村 岡 嗣 政 榎 田 實 柿 内 慎 一
 大 塚 岩 男 青 木 章 泰 服 部 誠 太 郎 山 口 祥 義
 大 石 賢 吾 甲 斐 隆 博 麻 生 益 直 春 山 豪 志
 塩 田 康 一 玉 城 デニ一 船 田 元 福 田 昭 夫
 築 和 生 佐 藤 勉 茂 木 敏 充 五十嵐 清
 藤 岡 隆 雄 上 野 通 子 高 橋 克 法 山 形 修 治
 阿久澤 真 理 古 澤 利 通 佐 藤 栄 一 古 口 達 也
 君 島 孝 明 高 橋 正 昭 久 保 元 芳
 星 野 芳 隆 大 西 啓 介 和 田 訓 田 中 一 明
 池 田 忠 青 木 克 明 阿 部 寿 一 阿 部 博 美
 石 坂 太 板 橋 一 好 一 木 弘 司 岩 崎 信
 岡 部 光 子 加 藤 正 一 加 藤 雄 次 金 子 武 蔵
 木 村 好 文 小 池 篤 史 小 菅 哲 男 琴 寄 昌 男
 小 林 達 也 佐 藤 良 小 林 幹 夫 塩 田 ひとし
 白 石 資 隆 関 谷 暢 之 五 月 女 裕 久 彦 相 馬 政 二
 高 山 和 典 螺 良 昭 人 中 島 宏 中 屋 大
 西 村 しんじ 野 澤 和 一 野 村 せつ子 早 川 桂 子
 日 向 野 義 幸 平 池 紘 士 保 母 欽 一 郎 松 井 正 一
 三 森 文 德 山 口 恒 夫 山 田 みやこ 湯 澤 英 之
 横 松 盛 人 吉 羽 茂 渡 辺 幸 子 北 村 一 郎
 末 永 洋 之 金 子 達 也 陣 内 雄 次 板 橋 信 行
 鈴 木 純 美 子 工 藤 敬 子 小 川 俊 彦 鈴 木 英 樹
 國 井 隆 弘 野 原 恵 美 子 小 野 寺 一 行 仲 山 信 之

委 員 長
 副 委 員 長
 総 務 委 員

委 員

辻 真 夫 青 柳 俊 明 坂 井 康 一 北 條 俊 明
 大 橋 哲 也 清 水 正 則 伊 藤 美 智 雄 桐 淵 ゆ か
 野 井 祐 一 高 橋 彰 吉 成 卓 坂 本 宏 夫
 柳 田 利 夫 清 水 武 治 國 谷 優 高 橋 高
 熊 倉 一 臣 大 川 直 邦 栗 原 丈 晴 松 本 和 士
 青 木 勲 藤 井 昌 一 福 田 徳 一 齋 藤 高 藏
 松 下 正 直 吉 田 元 荻 原 正 寿 稻 野 秀 孝
 関 根 房 三 柳 田 京 子 梅 澤 啓 子 内 藤 進
 揚 石 哲 司 高 橋 文 吉
 大 野 敬 三
 岡 達 生 西 川 由 香 橋 本 陽 夫
 菊 幸 一 鈴 木 浩 二 飯 坂 尚 登 今 井 純 子
 小 野 力 川 原 貴 坂 井 利 郎 菅 原 哲 朗
 松 田 基 子 松 永 敬 子 三 ヶ 田 礼 一 森 丘 保 典
 山 本 浩 高 崎 淳 也 橋 憲 市 千 代 森 修 一
 坂 口 純 弘 浅 沼 道 生 石 松 英 昭 宮 原 耕 史
 川 内 野 修 畠 山 剛 山 室 元 史 佐 々 木 重 夫
 伊 藤 明 徳 河 本 弘 岡 本 友 章 金 沢 敬
 江 橋 千 晴 吉 原 暁 憲 柏 瀬 仁 大 牧 稔
 平 野 了 高 橋 聖 一 植 田 昌 利 松 本 康 夫
 山 本 伊 知 郎 千 野 雅 人 小 山 田 裕 二 小 泉 芳 孝
 佐 久 間 裕 司 品 田 奥 義 濱 野 勉 黒 川 重 男
 舟 喜 信 生 高 野 修 坂 井 田 米 治 安 藤 正 美
 金 崎 正 久 小 林 三 郎 平 真 一 藤 熊 昇
 西 田 孝 宏 田 口 大 祐 鍵 山 博 網 代 忠 宏
 岸 川 剛 之 西 原 斗 司 男 後 藤 明 男 日 下 修 次

長南哲生	衛藤敬輔	丸石博	中段由美
佐藤直亮	山中博史	小倉好正	関根明子
中山二三男	野上順	吉田由美子	杉本好二
東野真理子	田中徹	川口雅三	永井太介
富澤佑也	小竹純太	松尾悠衣	佐藤梢
小河原百映	高崎淳也	成瀬幸宏	筒井諒太郎
橋本元樹	角藤大樹	久田晴生	内海隆博
太田よう子	宇田俊太郎	高田祥伍	若井江利
小笠原博	今野順	齊藤讓	武田浩一
滝田勝彦	中嶋正宏	井出仁	林泰章
荻布佳子	石川恵一朗	柏木佳久	中尾俊治
荒木一聡	米田康彦	吉富秀明	田部長右衛門
宮滝寛己	分木秀樹	荒木健治	平江公一
加藤寛章	瑞慶覧長行	大垣正雄	竹澤智明
島田充高	渡辺直人	荒川高志	綾部吉也





天皇杯

皇后杯

国民体育大会天皇杯・皇后杯授与規程

- 第1条** 天皇杯は、男女総合成績第1位の都道府県、皇后杯は、女子総合成績第1位の都道府県に授与する。
- 2** 第1位が2都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。
- 第2条** 天皇杯及び皇后杯は、総合閉会式に授与し、次回の総合開会式において返還する。
- 第3条** 天皇杯又は皇后杯を授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。
- (1) 信託会社又は確実な金庫に保管する。
 - (2) 破損、紛失等の場合は、当該都道府県の責任とする。
 - (3) 公益財団法人日本スポーツ協会が優勝都道府県名刻印のため又はその他の必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

附 則 本規程は、昭和41年4月1日 制定
 昭和45年1月22日 一部改定
 昭和48年7月10日 一部改定
 昭和54年5月9日 一部改定
 平成17年6月16日 一部改定
 平成22年3月17日 一部改定

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日（平成23年4月1日）から施行する。

平成30年4月1日 一部改定



大会会長トロフィー

国民体育大会会長トロフィー授与規程

- 第1条** 国民体育大会会長トロフィー（以下「大会会長トロフィー」という。）は、正式競技男女別総合成績第1位の都道府県に授与する。
- 2** 第1位が2都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。
- 第2条** 大会会長トロフィーは、競技会表彰式に授与し、次回競技会において返還する。
- 第3条** 大会会長トロフィーを授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。
- (1) 責任を持って保管する。
 - (2) 破損、紛失等の場合は、当該都道府県の責任とする。
 - (3) 優勝の刻印を次回大会までに行うものとする。ただし、第1条第2条の場合は、当該都道府県で協議して決めるものとする。
 - (4) 公益財団法人日本スポーツ協会が必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

附 則 本規程は、昭和41年4月1日 制定
 昭和45年1月22日 一部改定
 昭和48年7月10日 一部改定
 昭和54年5月9日 一部改定
 平成17年6月16日 一部改定

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日（平成23年4月1日）から施行する。

平成30年4月1日 一部改定

表彰状・額縁等について

総合成績表彰状授与 総合閉会式10月11日 カンセキスタジアムとちぎ
(栃木県総合運動公園陸上競技場)

総合閉会式では、日本スポーツ協会会長より男女総合成績第1位から第8位の都道府県、女子総合成績第1位から第8位の都道府県へ、「総合成績表彰状」が授与されます。

<男女総合成績>



【総合成績表彰状】

総合成績表彰状は、栃木県指定伝統工芸品である烏山手すき和紙を代表する「程村紙」で製作しました。那須楮を原料とする程村紙は、強靱さと優雅さをもって厚紙の至宝ともいわれ、その風合いを生かすため、総合成績表彰状はあえて周囲を切りそろえない「耳付き」で仕上げています。

丈夫で品格のある美しさから、皇室用の懐紙や烏山藩の藩札などの重要書類にも使われ、1977年には国の「選択無形文化財」となりました。現在では厚く緻密な紙質を生かして照明などのインテリアにも使用されています。

【木製額縁】

総合成績表彰状を納める木製の額縁（台座を含む）は、県木のトチノキです。県産材を活用して製作しました。

額縁には、栃木県指定伝統工芸品の日光彫で装飾を施しています。「ひっかき」と呼ばれる特殊な彫刻刀を使うことで生み出される曲線と、朱漆とカーボンブラック（炭の細かい粉末）を用いる「日光堆朱」という漆塗りの技法が日光彫の特徴です。

また、敷布に使用している結城紬は奈良時代から続く伝統の織物で、現在も日本最古の製法を守りながら生産が続けられ、2010年には「ユネスコ無形文化遺産」に登録されました。

男女総合成績表彰状の額縁には運気を上げるといわれる「昇り龍」の彫刻、敷布には希望や喜び

を感じさせる黄色の結城紬を、女子総合成績表彰状の額縁には県花「ヤシオツジ」の彫刻、敷布にはその花をイメージしたピンクの結城紬を用いています。

第77回国民体育大会 参加章・記念章

参加章

表



裏



記念章

表



裏



日光東照宮を代表する社寺の建築技術から発展した栃木県の伝統工芸品「鹿沼組子」をモチーフにデザインしました。

「鹿沼組子」の文様にはそれぞれ縁起のいい意味が込められており、参加章（国体）には「七宝」を、記念章（国体）には「積石亀甲」を使用しています。

県産の杉材を使用しており、一つひとつの色、木目が異なるため、参加章・記念章との「いちご一会」を楽しんでいただけます。

(規格) 幅：40mm 厚さ：5mm

炬火について

炬火とは、オリンピックの聖火にあたるもので、県民の皆さんから選手への応援の気持ちが込められた両大会のシンボルとなります。

炬火トーチ・ミニ炬火台

デザインは県民公募により決定したもので、県内企業の皆さんの協力を得て制作しました。

	炬火トーチ	炬火台
デザイン	伴印刷(株) <small>しんぼれな</small> 新保怜奈様	<small>たぐちよしなお</small> 田口義尚様 (株)みやもと
制作	(株)LIGHT'S様	(株)LIGHT'S様 (スチール加工、塗装、仕上) バーンストーン(株)様 (石材加工、大谷石貼付) (株)大久保様 (石材提供)

●炬火トーチ



(全長) 70cm
(重量) 400g
(材料) アルミ、ABS樹脂

栃木の川の流れを緩やかな流線形と青のラインで表現し、とちの葉を加えた緑のラインは栃木の自然を表現しています。また、展示用の台座には、県木であるトチノキを使用しました。

市町の炬火イベント、総合開会式での集火、式典での炬火点火で使われます。

●ミニ炬火台

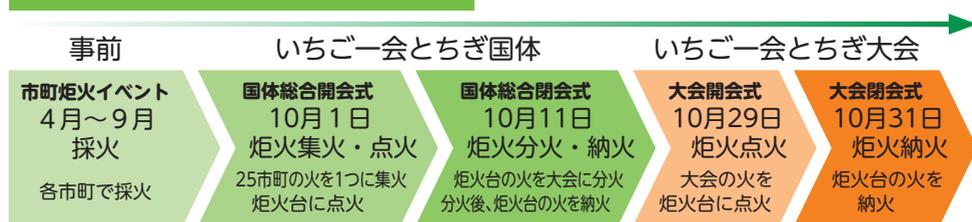


(高さ) 40cm
…実物の約4分の1サイズ
(横幅) 40cm
(重量) 約11kg
(材料) スチール、大谷石

スチールを下地に大谷石を用いていちごの形を表現し、実物の炬火台の約4分の1サイズで作成しました。この大谷石は、東日本大震災時に崩れた塀などを再利用しています。

市町の炬火イベントなどで使われます。実物の炬火台の完成を、ぜひ楽しみにしててください。

炬火イベントのスケジュール



市町炬火イベント

県内全25市町が主催し、各地域の特色をいかして県民の皆様が「炬火」を採火、集火するイベントです。

市町炬火集火式 (国体総合開会式オープニングプログラム)

県内全25市町で採火された炬火は、国体総合開会式当日カンセキスタジアムとちぎに集まります。そこで、市町代表者から5名のとちぎ未来アスリートへと集火され、その後、最終集火者(本県ゆかりの著名人)のもとで1つにまとまります。ここに「いちご一会とちぎの火」が誕生し、出場全選手の背中を後押しします。

炬火点火 (国体総合開会式)

栃木の葉国体で活躍した選手が当時の熱気や選手の想いを伝えるために、「いちご一会とちぎの火」をトーチに灯して入場します。その火は著名アスリートに引き継がれ、スポーツの感動や素晴らしさを届けます。最後に国体出場選手が国体開幕の喜びや成功への願いを込めて、炬火台に点火します。

炬火分火・納火 (国体総合閉会式)

いちご一会とちぎ大会の成功を願い、国体出場選手から障スポ選手へと炬火が分火され、引き継がれます。また、国体の火はその役目を終え、納火されます。

炬火点火 (障スポ開会式)

本県の障スポ競技の発展に尽力し、支えてきた貢献者が更なる発展への願いをトーチの火に込めて入場します。その火はパラリンピアンに引き継がれ、スポーツの感動や素晴らしさを届けます。最後に障スポ大会出場選手が大会の成功と全選手の活躍を願い、炬火台に点火します。

炬火納火 (障スポ閉会式)

両大会出場選手の健闘を称えるとともに、両大会に関わった全ての人の更なる活躍と、来年度開催される鹿児島県の両大会の成功を願い、納火します。

炬火燃料

両大会の開・閉会式で使用する炬火台用の燃料の一部には、古河電気工業(株)から提供されるグリーンLPガスが使用されます。

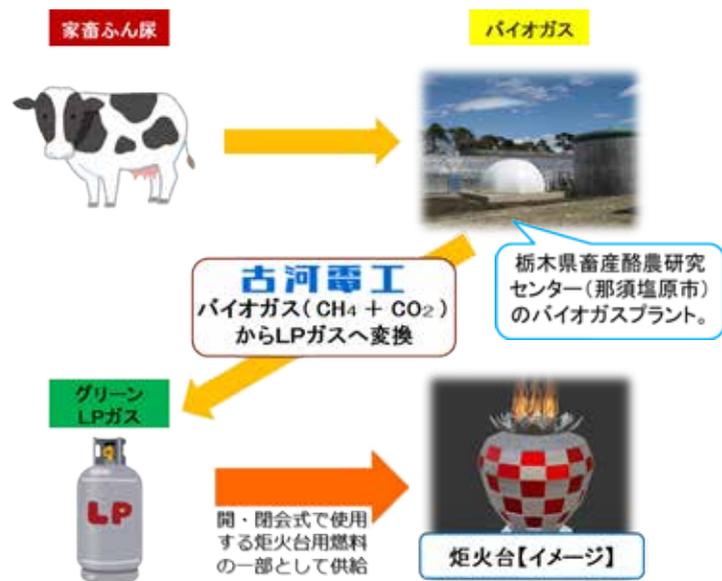
これは、栃木県畜産酪農研究センターにおいて牛のふん尿を活用して生産したバイオガスを、同社の触媒技術を用いてLPガスへと変換したものです。

▶【特徴1】環境に配慮した炬火燃料

グリーンLPガスは、家畜ふん尿を活用して生産するバイオガスが原料であることから、通常のLPガスの原料である化石燃料の使用を抑えられ、温室効果ガスの削減に寄与できます。

▶【特徴2】地産地消エネルギー

今回原料となるバイオガスは、栃木県畜産酪農研究センター内の牛のふん尿を活用して、同センターのプラントで生産したものです。地域で発生した廃棄物をエネルギー利用することで、廃棄物を減らし、地産地消・循環型社会の形成に貢献できます。



バイオガスからLPガスに変換することで、既存のLPガス用設備を利用でき、輸送や保管がしやすくなるため、使いやすくなるのも大きなメリットです。

このグリーンLPガスは、栃木県が令和4(2022)年3月に策定した、「2050年カーボンニュートラル実現に向けたロードマップ」で示される取組にも合致するものです。いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会のレガシーとして、将来、持続可能な社会構築に貢献することが期待されています。



第77回国民体育大会 総合開・閉会式 次第

1 総合開会式

- 期日：令和4(2022)年10月1日(土)
- 場所：カンセキスタジアムとちぎ

順	次第	時刻
	実施態度決定	6:00
1	開場	10:00
2	オープニングプログラム開始	12:45
3	入場締切	13:25
4	オープニングプログラム終了	14:05
5	皇室御着席	14:14
6	開式通告	14:15
7	役員・選手団入場開始	14:17
8	役員・選手団整列完了	14:40
9	開会宣言	14:41
10	国旗儀礼	14:44
11	大会旗・日本スポーツ協会旗儀礼	14:46
12	栃木県旗・宇都宮市旗儀礼	14:47
13	天皇杯・皇后杯返還	14:49
14	大会会長あいさつ	14:52
15	文部科学大臣あいさつ	14:55
16	皇室おことば	14:58
17	炬火入場・点火	15:01
18	選手代表宣誓	15:06
19	閉式通告	15:09
20	皇室御退席	15:10
21	皇室御着席	15:24
22	式典演技開始	15:25
23	式典演技終了	15:47
24	皇室御退席	15:48
25	役員・選手団退場開始	15:49
26	役員・選手団退場完了	16:04
27	エンディングプログラム開始	16:05
28	エンディングプログラム終了	16:34
29	終了	16:35

2 総合閉会式

- 期日：令和4(2022)年10月11日(火)
- 場所：カンセキスタジアムとちぎ

順	次第	時刻
	実施態度決定	5:00
1	開場	8:00
2	オープニングプログラム開始	9:00
3	オープニングプログラム終了	9:45
4	皇族御着席	9:59
5	開式通告	10:00
6	役員・選手団入場開始	10:01
7	役員・選手団整列完了	10:11
8	成績発表	10:12
9	表彰状授与	10:17
10	天皇杯・皇后杯授与	10:27
11	大会会長あいさつ	10:31
12	スポーツ庁長官あいさつ	10:34
13	栃木県旗・宇都宮市旗儀礼	10:37
14	大会旗・日本スポーツ協会旗儀礼	10:39
15	国旗儀礼	10:40
16	炬火分火・納火	10:42
17	国体旗引継	10:46
18	鹿児島県旗儀礼	10:48
19	閉会宣言	10:50
20	閉式通告	10:51
21	皇族御退席	10:52
22	役員・選手団退場開始	10:53
23	役員・選手団退場完了	11:09
24	終了	11:10

第77回国民体育大会 総合開・閉会式(荒天時) 次第

1 総合開会式

- 期日：令和4(2022)年10月1日(土)
- 場所：栃木県公館

順	次第	時刻
	実施態度決定	6:00
	(役員・選手団受付)	
1	皇室御着席	14:14
2	開式通告	14:15
3	開会宣言	14:16
4	国旗儀礼	14:19
5	大会旗・日本スポーツ協会旗儀礼	14:21
6	栃木県旗・宇都宮市旗儀礼	14:22
7	天皇杯・皇后杯返還	14:24
8	大会会長あいさつ	14:27
9	文部科学大臣あいさつ	14:30
10	皇室おことば	14:33
11	選手代表宣誓	14:36
12	閉式通告	14:39
13	皇室御退席	14:40
14	役員・選手団退場開始	14:41
15	役員・選手団退場完了	14:51
16	終了	14:52

2 総合閉会式

- 期日：令和4(2022)年10月11日(火)
- 場所：栃木県公館

順	次第	時刻
	実施態度決定	7:00
	(役員・選手団受付)	
1	皇族御着席	9:59
2	開式通告	10:00
3	成績発表	10:01
4	表彰状授与	10:06
5	天皇杯・皇后杯授与	10:16
6	大会会長あいさつ	10:20
7	スポーツ庁長官あいさつ	10:23
8	栃木県旗・宇都宮市旗儀礼	10:26
9	大会旗・日本スポーツ協会旗儀礼	10:28
10	国旗儀礼	10:29
11	国体旗引継	10:31
12	鹿児島県旗儀礼	10:33
13	閉会宣言	10:35
14	閉式通告	10:36
15	皇族御退席	10:37
16	役員・選手団退場開始	10:38
17	役員・選手団退場完了	10:48
18	終了	10:49

「いちご一会」

作詞・作曲：笠木 敦志 歌：サトウヒロコ

県民の歌

岡きよし 作詞

川島 博 作曲

栃木県県章・県民の歌選定委員会補作

♩=114 ~120 美しく力強く

ときぬちの はの のかみ げすき わやらかか にに はつ
 ひとぬちの はの のかみ げすき わやらかか にに はつ
 りくわ たな るまら よよ いめち らかみ よよ
 りくわ たな るまら よよ いめち らかみ よよ
 なせいん たらん はの きひごん にに あのけてて ひやくこ ひしんかん りの
 けいん たらん はの きひごん にに あのけてて ひやくこ ひしんかん りの
 よいもみなく ぎるしとちち ぎぎけんわ れら のの われれ
 わいもみなく ぎるしとちち ぎぎけんわ れら のの われれ
 ららの のの ふふるる ささき と と D.C. と

県民の歌

一、とちの葉の 風さわやかに
 晴れわたる 町よいらかよ
 男体は 希望に明けて
 日の光 よもにみなざる
 栃木県 われらの われらのふるさと

二、鬼怒川の 水きよらかに
 尽くるなき さちよ恵みよ
 生産は 日ごとに伸びて
 躍進の いがきたくまし
 栃木県 われらの われらのふるさと

三、人の和の 夢おおらかに
 盛りあがる 自治よ自由よ
 けんらんの 文化にはえて
 とこしえに 若さあふるる
 栃木県 われらの われらのふるさと

(昭和三十七年十二月二十五日制定)

夢を感動へ
 感動を未来へ
 心をひとつに
 夢は分かち合える
 トキメキを胸に
 情熱を大地に
 空を突き抜けて
 風を追い越して

いちご一会
 この瞬間
 思いを馳せた
 舞台が今ここに
 花は可憐に
 滝はまぶしく
 君は輝け

※VERY VERY GOOD
 BERRY BERRY とちぎ
 (2回繰り返す)

夢を感動へ
 感動を未来へ
 どんな人だって
 つまづく事もある
 だけどくじけずに
 そして繰り返し
 一つずつ登る
 想いを重ねて

いちご一会
 この瞬間
 真っ赤になった
 情熱解き放て
 緑あふれて
 風はきらめき
 君は輝け

※ 繰り返し
 時は過ぎても
 忘れはしない
 この感動を
 ※ 繰り返し



イメージソングは
 こちらから

